

俳優 永井大 × 市長 米田 徹 ふるさと対談 in 四谷

テレビや舞台でご活躍の俳優 永井 大さんから「ふるさと納税」の意向を受け、10月15日、永井さんと米田市長との記念対談が東京四谷のホテル（東京糸魚川会様ご提供）で行われました。

市長 ふるさと納税をしていただけるということで、ありがとうございます。たくさんのお出身者の方にご協力いただいています。永井さんからもお話をいただきまして、本当に感謝しています。こんなふうに使ってほしいというように思いがありましたらお聞かせいただけますか。

永井 地元糸魚川の発展のために、ほんの少しかもしれないですけども、いろんなかたちで使っていただきたいなと。また「ジオパーク」を糸魚川の魅力や売りにするためにも使っていただけたらいいなと思います。

市長 世界ジオパーク認定で、今までは国内に名前を売り出すだけでも大変だったのが、世界の中の糸魚川という環境になりました。それを使っていろいろと糸魚川のこれからの発展に繋げていければと思っています。認定されたから終わりじゃなくて、これからがスタートです。

司会 今、まちの中でもジオパークに関連したいろいろな商品やグッズの開発もされています。

※テーブルに広げられた商品やグッズに話がはずみます。

司会 高校を卒業されるまでは糸魚川にいらっしゃったということですが、子どもの頃の思い出話などがあれば。

永井 山、海、やっぱり自然がすごく、僕も東京にやってきました長いので、改めて自然が豊かなまちだなと思いますね。糸魚川出身の方ってなかなか、地方から都会に出て、あんまり戻る人はいなかったりしますよね。今、人口はどのくらいですか。

市長 合併時は5万人「強」だったのが、今は「弱」になった。減ってるんだよね。それと、子どもがあまり増えていけないのが悩みの種。子どもの教育に力をいれようというのもそれなんです。やはり糸魚川で子育てをしたいという気持ちを持てるような教育や支援、環境を作っていきたいと思っています。

永井 自分が育っていたときって、もう少し活気があって、まち全体が明るい…色でいえば、すごくこう…くすみのない青空というか、すごく綺麗な色のイメージが強かったんですけど…。まあ、今は不景気っていうのもありますけどね。

市長 そういふなかで頑張ってくれてこういう商品やグッズを出して売ったり、またジオを介しているいろんなことを考えていたりということで、少し動き始めたのかなと。

永井 セっかくですから、全国の小学校とうまく提携をしてみるとかコミュニケーションをとって、子どもたちに自然を見せてあげるっていうような環境というものは作れないもんなんですかね。

市長 学校の先生にもお願いして、市内ではそういう流れを作っています。一番大事なものは、やっぱり教育、学習の中に織り込んでいくようなやり方。単なる景色がいいから見て楽しむだけでなく、ジオパークの資源を勉強できるような環境っていうのを最低限作っていかなくちゃいけないと思います。

永井 都会にいと、子どもたちは土に触れるっていうことはあまりないんで、田舎に行って土に触れる喜びとか楽しさとか、アユを捕まえたりとか、川遊びしたりとかっていうような感じで、それが出来るまちなんです。よっていうのを売りに、いろんな県とうまくコミュニケーションとっていければ、そういうかたちも実現できるんじゃないのかなって。

市長 世界ジオパーク認定は糸魚川にとって本当に大きなチャンスだからね、こういうチャンスってあまりなかったんで、それを最大限活かしていきたいと思っています。

永井 小学校って今のくらいですか。

司会 小学校は18、中学校が5つ。小中学生で3,600人ぐらい。今その子どもたちに、ジオパークや糸魚川の素晴らしさを学習支援というかたちで教えています。

